

教職大学院改革特別フォーラム *Session 0*

2021年2月20日(土) 10:00-12:00

(Zoom 接続開始 9:30)

「理論と実践の融合」への企図 その現段階

教職大学院の展開をめぐる当事者としての省察と展望のために

2006年の中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」における「教職大学院」制度の創設の基本的な考え方、「理論と実践の融合」をめざす「基本の方針」が定位され、翌2007年4月、12の教職大学院が出発して以来今日に至るまで全国の国立大学に教職大学院が設置され、54の研究科が設置され、従来の修士課程を教職大学院に一元化する動きも進んでいる。

しかし、教職大学院の全国的な拡大、および大学院一元化の展開の過程において、教職大学院のめざすべきあり方、「基本の方針」への問いはどれだけ深められてきたと言えるだろうか。少子化の状況が続く中、一方で国立大学における教育系部門の縮小・統合への圧力が強まる状況の中でこそ、地域の教育改革を支える教職大学院の役割、そのための「理論と実践の融合」による力量形成のためのアプローチの実質化と深化が問われる。

この特別フォーラムにおいては「理論と実践の融合」・地域と結び教育改革を支える企図をめぐる各地における取り組みを省察し共有しつつ、教職大学院の基本的なあり方をめぐる問いを改めて展開し、今後の展望をひらく機会としたい。

学校改革と教師の力量形成を支える「理論と実践の融合」をめぐる三つの論点

1. 「理論と実践の融合」、省察的实践とその機構への問いの展開と現段階

教職大学院の創設以来の基本的方向定位「理論と実践の融合」はその後の展開の中でどのように進められてきているのか。またそれによって教師の実践的力量形成と学校の改革はどのように展開されていくのか。複数の大学における取り組みを共有しつつ検討し問いを深めていきたい。

2. 「理論と実践の融合」への組織基盤：学校・教育委員会・教職大学院の協働組織を生み出し培う

教職大学院の企図は、学校・教育委員会との協働組織の拡大と深化を土台にしてはじめて展開されていく。各地における教育委員会・学校と教職大学院の協働組織の取り組みを共有していく。

3. 教師教育改革・教職大学院改革の展望とその担い手

教職大学院発足より15年近い展開を経て、新しい世代がその中核を担う段階が生まれてきている。教職大学院における新しい世代の実践と構想を共有し合う場を開いていきたい。

挨拶

福井大学 理事（企画戦略担当）・副学長 松木 健一

趣旨説明

福井大学大学院連合教職開発研究科 准教授 遠藤 貴広

報告 1 : 拠点校方式における指導と連携の実際

信州大学大学院教育学研究科 高度教職実践専攻 教授 畔上 一康

報告 2 : 大阪府教育委員会と大阪教育大学の連携による 現職教員のためのカリキュラム改革

大阪府教育委員会事務局 総務部 教育政策課 大学連携企画担当課長 比嘉 直子

報告 3 : 教員育成指標に基づいた資質能力を育成する教員研修について ～福井大学連合教職大学院との協働を通して～

福井県教育総合研究所 教職研修センター長 山内 康司

提案

福井大学大学院連合教職開発研究科長・教授 柳澤 昌一

コメント

文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課 教員養成企画室長 齋藤 潔

〈司会〉 福井大学大学院連合教職開発研究科 客員教授 寺岡 英男

※ 2月19日（金）10:55 に Zoom 接続案内を参加申込者にメール配信いたしました。